

～副鼻腔炎(蓄膿症)～

鼻腔は、鼻穴から口蓋垂こうがいすい(のどちんこ)の上までつながっている空洞です。

しかし、鼻の中の構造は少し複雑で、鼻腔を取り巻くようにつながった副鼻腔という空洞が顔の裏側にあります。

目の上のおでこの裏側には前頭洞、目の下で頬の裏側には上顎洞、目頭の裏側には篩骨蜂巢と蝶形骨洞という4つの副鼻腔がそれぞれ左右一対ずつあります。

鼻腔には、においを感じるセンサーのような働きだけでなく、冷たい空気は暖め、乾いた空気は湿らせるといったエアコン機能、煙や埃ほこり、さらには細菌やウイルスなどの異物が肺に取り込まれないようにするフィルターの役目があります。

鼻腔とつながった小さな空洞である副鼻腔の役目は今のところはっきり分かりませんが、副鼻腔の形や大きさが顔かたちや声の違いなど個性を生んだり、顔に強い力がかかった際には、それを受け止め、時には骨折して鼻腔がつぶれることで、脳への衝撃を和らげる緩衝材の働きをするなどと言われています。

副鼻腔炎は蓄膿症とも言い、副鼻腔が細菌やウイルスに感染して炎症を起こす病気ですが、アレルギー性の鼻炎や喘息ぜんそくがきっかけになることもあります。

副鼻腔炎にかかると、鼻水が止まらない、黄緑色や

膿のような色の鼻水が出る、鼻づまりが続く、鼻とどの間に痰たんが張り付いたままの感じがするといった症状が現れます。

また、炎症の起きている場所により、頭痛や目の奥の痛み、頬の痛み、歯痛など様々な痛みを伴うこともあります。

副鼻腔炎かどうかを検査する場合には、鼻鏡や内視鏡を使って、鼻の中を観察し、粘膜の色合いや鼻水の性状、ポリープの有無などを調べる方法があります。

そのほか、レントゲンのほか、CTやMRIといった器械を使って、炎症の有無や程度、ポリープの有無などを診断することもできます。

さらに、炎症の原因となっている細菌を調べ、それぞれの細菌に効く薬を選択することも大切です。

治療法としては、症状により、炎症の原因となっている細菌を減少させる抗菌薬や、鼻や喉の粘膜を正常に戻す薬、あるいは鼻水や痰を出しやすくする薬などを服用します。

薬の服用だけで治らない場合、手術による治療を行うこともあります。現在では、歯ぐきや顔を傷つけることなく、内視鏡を使用しながら、鼻の中から行う手術が一般的となっています。

問合せ 市民病院 ☎24-6111 FAX 22-0887